



# IIJグループ 株式会社ネットケア様 データセンター

## オペレーション効率の向上に大きく貢献 高い安全性を誇るラックマウント専用リフト 「serverLIFT」

IIJグループのネットワーク運用を支えてきた経験をもとに、様々なITアウトソーシングソリューションを提供している株式会社ネットケア。同社のビジネス基盤として欠かせないデータセンターを全国で運営しており、ハウジングやホスティング、ITキッティング、運用監視など様々なサービスを展開している。そんな同社が運営するデータセンターでは、ラックに格納された数多くのサーバーを運用しており、日々増設やHDD・メモリ交換など、様々なオペレーションが発生している状況だ。このサーバーオペレーションを円滑に行うために役立っているのが、Upside合同会社が提供しているラックマウント専用リフト「serverLIFT」である。



### ■会社概要

株式会社ネットケア

住所 : 東京都千代田区神田須田町 1-23-1

住友不動産神田ビル2号館 16F

設立 : 1998年 2月 9日

従業員数 : 約520名 (2012年7月現在)

事業概要 : ネットワーク運用管理、テクニカルヘルプデスク、コンタクトセンターなど、総合的なITアウトソーシングソリューションサービスを提供

### ■頻発するオペレーション要求に 対する業務効率化を目指して

1998年に設立された株式会社ネットケアは、IIJグループにおけるネットワークの運用管理を長年行ってきた経験を活かし、様々な業態の顧客にITアウトソーシングソリューションを提供している。具体的には、コンタクトセンター業務を皮切りに、緊急地震受信支援パッケージ「Eq Care」や企業向けホスティングサービス「f. a. s. t」、監視運用サービス「A. i. s. e」、シンクライアントソリューション「REMO」など法人向けの様々なソリューションを展開しており、多くの顧客のIT基盤を強力に支えている。そんな同社のビジネスに欠かせないデータセンター内には、多くのラック及びサーバーが管理され

ており、増設やメンテナンスを繰り返しながら常にITインフラの最適化図っている状況だ。中でも同社が運営している練馬データセンターでは、顧客やIIJグループ各社からサーバーの移設をはじめとした様々なオペレーション要求が頻繁に発生している。「サーバーの増設や筐体交換などのオペレーション指示だけで、日に4件以上発生することがあります」とデータセンターサービス部 次長 稲森 裕幸氏は語る。このオペレーション作業では、サーバラックからサーバーを取りはずすこともあり、基本的に2名の人員でオペレーションを遂行する運用フローとなっている。近年のIIJグループの大幅な業務の伸び

により、社内人員だけで対応するのが難しい状況になってきていた。依頼が重なった場合、契約しているパートナー企業に対して現場にオペレーターの派遣を要請し対応する事も度々あったという。しかしながら、パートナー企業への要請の場合、オペレーション終了までに2時間以上かかってしまうケースもあったとDCマネージャーは当時を振り返る。

## ■実際の現場で使用感をチェック その使いやすさを評価

そこで、さらなるオペレーションの効率化を目指して情報収集を開始した稲森氏だが、その過程で目に留まったのが、マウント作業が効率化できラックマウント専用リフト「serverLIFT」だった。同時にほかにも製品を探してみたものの、サーバー専用のリフトは見当たらなかったという。「他用途向けのリフターをサーバーマウントに転用する事も考えましたが、安全性や操作性の点で問題になる可能性があり、本末転倒になると判断したのです」。また、実際の使い勝手を確認するべく、利用している現場に赴いたデータセンター・オペレーターは「写真の印象に比べて、非常に軽く動かすことができることに驚きました」とその印象を語る。特に心配していたのは、ラックとラックの間で作業したとしても通り抜けるかどうかという“スペース”の問題だ。しかし、実際に計ってみたところ、その心配は杞憂に終わる。「スペック上に記載されているのは最大の長さで、すり抜けるだけの十分なスペースが確保できます。移動もし易いためまったく問題ないことがわかりました」（データセンター・オペレーター）。フロア間を移動する可能性も考慮して、扉の段差がきちんと乗り越えられるかなどを念入りに確認し、最終的にserverLIFTが選ばれることになる。

## ■高い安全性を確保、オペレーション効率の向上に大きく貢献

現在は、データセンターのワンフロアにserverLIFTの「SL-500Xi」が導入され、サーバーの増設や故障時のサーバー取り外し、メモリ交換を行う作業など、様々なオペレーションに利用されている。また、ラックの上部に搭載されているサーバーの導通確認を行う際にも活用されており、サーバーを載せるプラットフォームと呼ばれる台の部分にテストを置くことで、結果が出るまでテストを持ち続けることなく試験を行うことができるという。

特に大きな効果は、現場のオペレーション効率が大幅に向上していることだと稲森氏。IIJの事業が拡大し作業の依頼頻度が増加する中、サーバー交換作業時に社内人員で対応出来なくなった場合、外部のパートナー企業に要請をして現場に来てもらう必要があった。その場合、待ち時間を含むオペレーション時間が社内人員の時よりも大幅に要しており、リードタイムが増加の要因となっていた。「しかし、今ではserverLIFTを使う事で、外部のパートナーに要請するという事も激減し、効率化に大きく貢献しています」と稲森氏は評価する。実際の使いやすさについてもDCマネージャーの評価は高い。「ラックとの間の狭い通路で作業する場合も、左右どちらからでもリフトの上げ下げが可能な2つのスイッチが設置されており、わざわざ回り込む手間も必要ありません」。タイヤが動く方向をロックすることで直進性が高まり、狭いラックの間でもラックを傷つけることなくまっすぐ進むことが可能なスイベルロック付キャスターの効果も見逃せないと評価するのはデータセンター・オペレーターだ。



安全性の観点で見ると、通常であればラックの上部に設置されているサーバーを抜き差しするには、作業的に負荷が高くリスクもある。そのリスクがServerLIFTによって回避できるようになっており、作業の安全性を確保する意味でも役立っているとDCマネージャー。リフト上昇時には障害物への衝突を回避するブレーキロックシステムがあるなど、serverLIFTに備わっている様々な機能も安全性に対する大きな評価ポイントとなっている。

なお、実際には電動でプラットフォームの上げ下げを行うが、コンソール上にバッテリーチェッカーが用意されており、一目で確認できるようになっている。「充電を導入時に行ってから2か月が経ちましたが、いまだに充電をする必要がないほどバッテリーが長持ちしています」（データセンター・オペレーター）。

## ■さらなる業務への応用に期待

現在のオペレーションは1Uサーバーに対する指示が中心となっているが、2Uサイズのサーバーに対するオペレーションが発生した場合でも、肉体的な負荷をかけることなくオペレーションが遂行できると期待を寄せている。稼働頻度の関係で大きな費用対効果が発揮されるのはこれからだが、serverLIFTへの信頼度は利用するたびに高まっており、人件費や外注費の削減など、今後も効果を実感する機会が増えてくるはずだと稲森氏。また、現在は1フロアにのみ設置されているserverLIFTを各フロアにも展開出来ればとDCマネージャーはその思いを語る。さらに、自社のオペレーションのみに使っているが、その容易な操作性や安全性から、お客様に貸し出す事も可能だと判断しており、新たな活用も検討していると今後の展開を語って頂いた。

**Upside**  
upside llc

Upside合同会社  
東京都千代田区九段北1-4-1  
日本地所ブルックスビル2階  
03-6261-3973  
serverlift@upside-llc.com